

## 待降節の黙想会

金 大烈 神父

2007年12月9日

はじめにこの黙想会を助けて頂けるように、マリア様に祈りましょう。

(全員で 天使祝詞 を祈る)

今日は三つのことについて40分から1時間で終わるように簡略にお話しようと思います。

まず三つのテーマとは、

1. 弱い者の幸せについて
2. 普段の心と最後の選択との関係について
3. 祈りについて です。

### 1. 弱い者の幸せ

生まれてから今まで苦労があったでしょう。生きることは容易(たやす)いことではありません。人生には乗り越えなければならない山が多く、越えなければならない川も多いです。今の時点でも、なぜ私はこうなったのか、なぜ立ち上がる力がないのか、生きる意味は何なのか、なぜ信仰の生活をしなければならないのか

…等、迷いがあるでしょう。

生きることに疲れている人に、黙想に役立つある人物についてお話ししましょう。その人は新約聖書の中で一番立派な人に見えますが、一番弱かった人です。使徒ペトロです。このペトロという人はどういう人だったのでしょうか？その人格は？ イエス様の一番弟子でした。誰よりイエス様についてよく知っていて、何をお望みか理解しやすい立場にいた人です。そして実際に、いろいろな場面でイエス様に告白しています。

「あなたは生きているキリストです」(マタイ16・16、マルコ8・29、etc.) しかし、イエス様にもせたのはその反対の裏切りでした。

イエス様が捕らわれる前、ペトロに「今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度私を知らないと言うであろう」とおっしゃると、ペトロは「たとえあなたと一緒に死ななければならないとしても、決してあなたを知らないとは言いません」(マタイ26・34~、マルコ14・30、etc.)と言い切りました。しかしイエス様が捕らわれた時、人々から「あなたもあのイエスの仲間だ」と言われて、「いや、知らない」と三度もイエス様との関係を否定しています。その時、鶏が鳴き、ペトロは裏切った自分の姿を認め、後悔して大声で泣きました。

ところで後悔してから、彼の態度は変わったでしょうか？ 回心して、もうイエス様を裏切らないようにしたでしょうか？ 聖書には、イエス様が十字架を担って歩まれた時、ペトロも共にいたと書いてある箇所はありません。彼はまだ臆病で弱くて卑怯で、陰に隠れて泣いていたのです。自分が間違っていたと悟り、悔い改めても、それでもまだ逃げ場を捜していた。イエス様が亡くなられた後も、捕まることを恐れて隠れていた。イエス様の復活はマグダラのマリアから伝えられたのでしたね。それでもイエス様はペトロを教会の長に選ばれました。ペトロに天国の鍵を預けるとおっしゃいました。全然男らしくない人、軟弱な心を持った人を最初の教皇としたのです。

ここにすばらしい真理が隠れています。ペトロのことを卑怯者、弱虫と思われるかもしれませんが。しかし、私達の中にペトロを指さしてそう呼ぶ資格のある人がいるでしょうか？ ペトロの卑怯な心、弱い心は私達の中にもあります。その後のペトロの人生はどうなったでしょうか？ 聖霊が下った時、彼は180度変わりました。大胆にイエス様のことを述べ伝え、命をかけました。最後にはどのように亡くなりましたか？ 十字架にかけられると知り、イエス様と同じ刑では申し訳ないと言って、十字架を逆さにして処刑されました。

ペトロのこの変化に私達は希望を持つべきです。神様が選んだ弱さがなかったら、この勇気を持ってない。人は生まれつきこわがりです。本当に勇気がある人はけんかをしなければならぬとき、こわがります。震えます。「これをやったら死ぬかもしれない、しかし、やらなければならないからやる」これが本当の勇気です。このことは心理学的に確かなようです。自分のことをあきらめている人も、自分の弱さを認めたら強くなる可能性を頂いていることになります。偽の勇気は弱さを隠すためのものです。

ペトロは初代のパパ様です。イエス様がこの人を選んだ。弱さを選んだのです。これが救いの道。この世の中に強い者はいません。皆、死にます。こわがりです。一人ぼっちでは生きられません。誰かがいなければ淋しいと思う心を持っています。それを認めたら、想像しなかったような何かができるようになります。神様から愛されていることを本当に正しく理解すれば、頭が下がります。感謝します。すべてのことがあの方の助けであると悟る心ができます。神様があなたを愛していることを確信して下さい。それがわからない人に会うと私は悲しくなります。なぜ自分をそんなに軽くみるのか。神様がその人のためにこんなにガンバッテいらっしゃるのに、なぜ感じないのかとってしまいます。

弱さも、卑怯も、隠すものではなく、正しい強さに行く道です。神のみ旨を悟る者になるために、神に愛されていることを知るために必要なのです。自分の中に否定したいところがあれば、それは神からのプレゼント、幸せと思って下さい。何よりも強くなれる、そして、謙遜も、まことの勇気も頂けると確信しましょう。

## 2. 普段の心と最後の選択

先々週の「王であるキリスト」の祝日の福音の後半を読ませていただきます。

『十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れぬのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は自分のやったことの報いを受けているのだから当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない」そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出して下さい」と言った。するとイエスは「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた』(ルカ 23・39～)

この犯罪人のことを詳しく書いているのはルカだけです。マタイもマルコもヨハネもイエス様と同じ時に二人の盗賊が十字架にかけられたとだけは記していますが、この二人とイエス様とのやり取りは書いていません。ですから、このルカの書いたことが歴史性があるかどうかはわかりません。しかし、二人がイエス様と共に十字架にかけられたことは歴史的に正しいことと言えるでしょう。

このルカの書いたことが本当だとしましょう。二人のどろぼうがイエスという騒ぎを起こした人物の両側で十字架につけられました。一人はイエスを呪い「自分自身を救ってみろ」と言って嘲笑った。もう一人は「自分は悪いことをしたのだから、罰を受けるのは当然だが、この人は何も悪いことをしていない。今日あなたの御国で私を思い出して下さい」と頼みました。十字架の上で取引が行われたのです。イエスさまが公証人となり、二人は何に賭けるか言い合ったのです。天国へ行くか、地獄へ行くかの取引がほんの短い時間に行われたのです。それは刹那のできごとでした。

この二人の人生を想像してみましょう。たぶん、二人とも辛い人生を送ってきたのでしょ。二人とも良い環境、良い条件で生きられなかったのでしょ。しかし、最後の選択が違いました。二人とも悪いことをしました。一人は自分が悪いことをするのはこの世が悪いからだ。この世を暗闇と捉えていた。盗んだのも、殺したのも、そうしなければ自分がされるという考えで生きてきた。世の中に対する憎しみをイエスにぶつけて呪った。もう一人、イエスを選んだ者は、辛い状況の中で悪いことしてしまっただが、自分が正しくないことを感じていた。後悔しながら生きてきたのでしょ。だから、捕まって十字架につけられた時「私を救ってください」という選択ができたのです。

結論を申し上げます。最後の時に正しく選択するためには、普段の選択を正しくしようとする

練習が必要です。今、少しずつ信仰に心を使い、倒れても、もう一度立ち上がろうとする心、一生懸命生きている普通の心が、最後の時に最良のものを選択できるのだということを意識しなければなりません。

「このように罪だらけの自分だから、今、回心してもまたすぐ罪を犯す。だから、死ぬ時回心したほうがいい」と言う人がいるかもしれませんが、そういう人は死ぬ時(最期の時)司祭を呼んで回心する機会は与えられないでしょう。信仰の道は命がけ。とこしえの命を選ぶかどうかの一番大きな賭博のようなもの。普通の、今の状態をよく見るべきです。私は何を憎んできたのか。何で泣いているのか。そうすると、未来が見えてきます。

いつも、私が「ミサに与って下さい」「御聖体を頂いて下さい」「許しの秘跡を受けて下さい」と力を込めて申し上げているのは、ある日突然来る最後の時、正しい選択ができるようにするためです。死ぬ前に愛したらいいじゃないか。死ぬ前に良いことをしたらいいじゃないかと思っても、そういう機会は与えられないでしょう。今、自分のすぐそばにいる人が正しい選択をする案内人です。このように考えながら待降節を過ごしましょう。

どのような心で生きているかを考えるために、この二人の気の毒な人生をモデルとして話してみました。

### 3. 祈りについて

「求めなさい、そうすれば与えられるであろう。捜しなさい、そうすれば見出すであろう。たたきなさい、そうすれば開かれるであろう。誰でも求める者は受け、捜す者は見出し、たたく者は開けてもらえるのである。あなたたちのうち、子供が魚を求めているのに、魚の代わりにへびを与える父親がいったいいるだろうか。(略) このように、あなたたちは悪い者であっても、自分の子供たちに良い物を与えることを知っている。まして、天の父が自分に求める者に聖霊を下さらないことがあるだろうか」(ルカ 11・9~13、マタイ 7・7~11)

「祈り」という言葉は信者でなくてもわかりますよね。しかし、信者の中にも「祈り」ということがわからない人が結構いらっしゃいます。また、わかっているけど「自分は祈りができる」と自信を持って言える人がどの位いらっしゃるのでしょうか？ 祈りの必要性は感じていますが、祈りの大切さ、必要性は感じているが、それがなかなかできないのが私達です。

祈りに関する考え方を二つに分けてみましょう。

- ・ 祈りの必要性がわからない人
- ・ 祈りたくても祈れない人

祈りの必要性を感じない人、祈りは必要ないという人は、イエス様に出会う方法は祈りではないと言います。貧しい人とともに汗を流して働き、奉仕することでイエス様と出会うと…。社会活動(奉仕)の方が祈りより良いという考え方です。しかし、信仰者である私達がそのように考えるなら、偽りです。100パーセント詐欺です。私達は祈りなしにイエス様のみ旨をわかることはありません。祈りによって知恵を頂きます。知恵は神様のみ旨を理解させてくれます。それが祈りです。

祈りなしに良いことができるというのは、信者でない人で生まれつき心のきれいな人、そういう人もいます。神学者はそういう人を匿名のキリスト者と呼んでいます。私達は匿名ではありません。名前をもらっているキリスト者です。悪いことが、正しいことが、どの道を歩むべきかを知る、それが祈りです。祈りの味がわからなかったらおもしろくないでしょう。無意味に感じるでしょう。神様が喜んでいらっしゃるのか、悲しんでいらっしゃるのか、わからない。祈りの必要性を否定する人は跪いて(ひざまずいて)祈る時間があったら、その時間奉仕した方が良いと言いますが、それは大間違いです。まず、祈ってから奉仕するべきです。祈らないで奉仕するのは自己満足です。私達が良いことをする理由は神様を喜ばせるため。祈るとは、自分のすべてが神様から与えられているという幸せを感じることで、そして、その幸せを他の人に伝えることです。

幸せにも二種類あります。

- ・ 隠して、自分だけで感じる幸せ（宝）
- ・ 皆に見せたい幸せ（宝）

隠したい宝とは見せなくて良いもの。恥のようなもの、神様が下さった表わさなくてよい宝です。見せなければならぬ宝とは、弱さを乗り越えた笑顔のようなもの。例えば、どこかの食堂に入って食事をする時に、神様に感謝の祈り（食前、食後の祈り）をしますか？ 以前、私は数人の信者さんと食堂で食事をしたのですが、十字を切って祈る人がいなかった。腹が立ちました。又、ドライブをしている時も祈ろうと言う人がいなかった。悲しいことです。恥ずかしがらずに人前でも十字を切って祈りましょう。この祈りは隠した方が良いか、表すことによって、他の人の助けになるかの識別力が必要です。

「この人に一番良い方法はなんでしょうか。イエス様教えて下さい」これが祈りです。夫婦の間でもこのように祈ることが大切です。いろいろな祈り方があります。それぞれ祈り方が違います。でも相通じることが一つあります。祈るために何が必要でしょうか？ “時間”が必要です。時間を取って下さい。

「朝夕の祈りを必ずします。食前食後の祈りもします。でも祈りの味がわかりません」と言う人がいます。雑念で集中できなくても、祈りです。眠ってしまっても、祈るために時間を取ったことに意味があります。聖書を読む。眠くなるのに一番良いものですよ。特に旧約聖書は…。それでも時間を作って下さい。そうしているうちに納得することができるようになります。

私がこの教会を好きな理由の一つは、お聖堂によく人が来て祈っていることです。疲れた時、悩んでいる時、辛いことがあって悲しい時、会社の帰り、買い物の途中等、ご聖櫃の前で祈っている姿を私はしばしば見ます。これが教会のうれしい姿。こういう人がもっと増えてきたら、すばらしくなります。

祈りは喜びです。義務でするものではありません。自ずからでる何かによって正しい道を歩むために大切なもの。はじめのうちはやりたくなくても時間を作って下さい。一人でお聖堂でボンヤリするだけでもいいです。毎日時間を決めて祈るのもいいです。祈りの恵みはすばらしいです。祈りましょう！ なくさめ、勇気を神に求めて下さい。

もう一度読みます。

「求めなさい、そうすれば与えられるであろう。捜しなさい、そうすれば見出すであろう」一言で言えば、「祈りなさい」ということです。祈ることも練習が必要です。会議に出席する時も一言「知恵ある集いになるように助けて下さい」と祈る。このようにしたら神秘的な関わりができると私は信じます。

今ちょうど一時間経ちました。この黙想会で何を話そうかと迷っていた時、大泉地区の地区集会がありました。その地区の家族の人達と話し合っていて、このテーマを黙想会で話そうと決めました。

最後にまとめます。

1. 自分の弱さは恵みであることを知ることによって、神に選ばれたのだと悟ることができる。神に愛されていることを自信をもって信じて下さい。
2. イエス様とともに十字架にかけられた二人の犯罪人から悟ることは、ある日突然良い選択はできないということ。普段の状況の中で、常に良い選択をする練習をしていなければいけないということです。
3. 祈りは必要なものであるということ。祈りのために時間を作る。歩きながらも、座ったままでもいいから祈る。そのようにしたら、今まで経験したことのないような幸せを感じることができると思います。

最後に主に感謝して、主が教えて下さった祈りをささげましょう。

(全員で 主の祈り を祈る)

ありがとうございました。